

世界の伝説

浜田廣介・大藤時彦＝共編

2年生



NDC 380

学年別シリーズ

世界の伝説 2年生

編者 浜田廣介・大藤時彦

1971年〈昭和46年〉

実業之日本社

180p. 21.5cm

本文4号活字使用

小学校2年生向き

〈内容〉 昔から世界の各地に伝わるお話〈伝説〉を、このシリーズのために新たに収集し、やさしい文に書き直した異色の伝説集。

検印省略

学年別シリーズ

世界の伝説 2年生

1959年6月15日 第1版第1刷発行

1971年8月15日 第2版第1刷発行

1975年5月31日 第6刷発行

編者 浜田廣介・大藤時彦

発行者 増田義彦

発行所 実業之日本社

〒104 東京都中央区銀座1-3-9

電話(大代表) 03-562-4311 振替 東京1-326

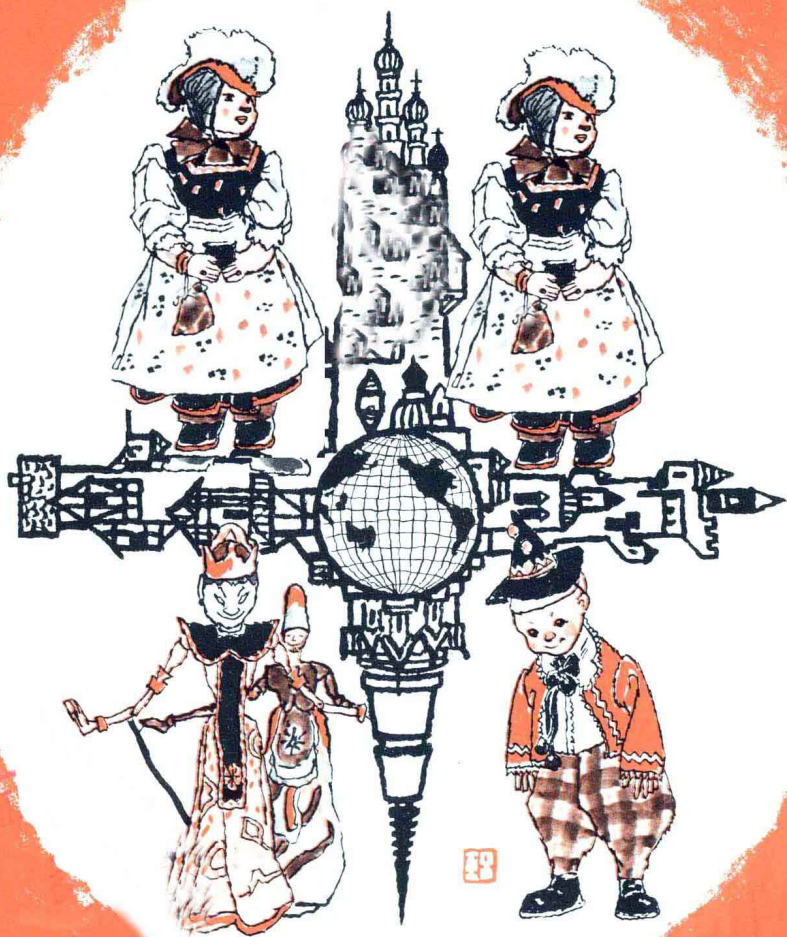
印刷所 株式会社 東京研文社

① Jitsugyo no NihonSha, 1971. Printed in Japan
8339-807461-3214

世界の伝説

2年生

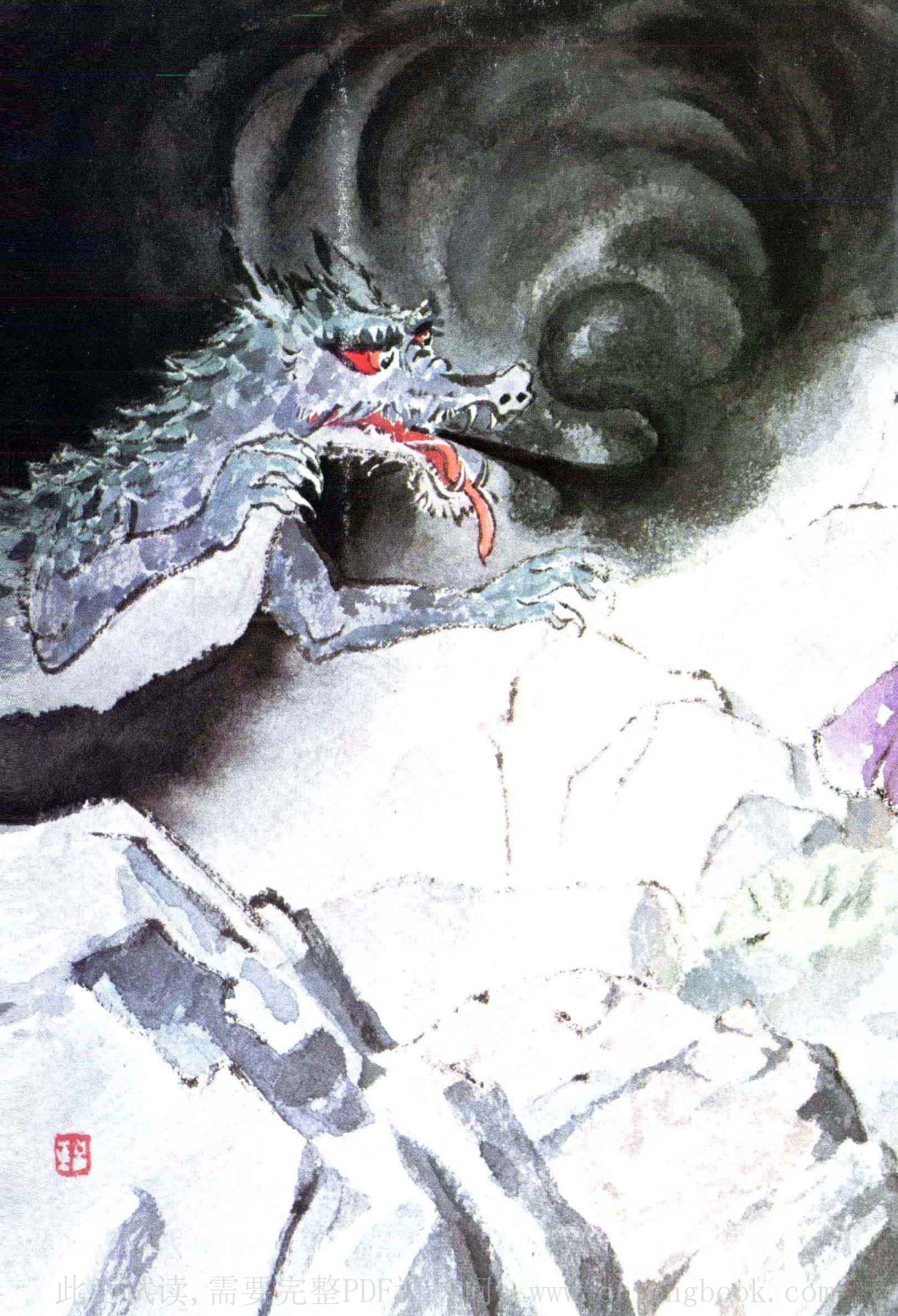
浜田廣介・大藤時彦 共編



実業之日本社



王さまが、そばの大きな石をもちあげて、ぐんとはかりになげつけると…（『火のまつり』70ページより）



● この本を編集した人

浜田廣介（はまだ ひろすけ）

大藤時彦（おおとう ときひこ）

● この本のお話を書いた人 〈50音順〉

石原綏代（いしはら やすよ）

植田敏郎（うえた としろう）

大藤ゆき（おおとう ゆき）

丹野節子（たんの せつこ）

浜田禎夫（はまだ ただお）

浜田廣介（はまだ ひろすけ）

平塚武二（ひらつか たけじ）

福井研介（ふくい けんすけ）

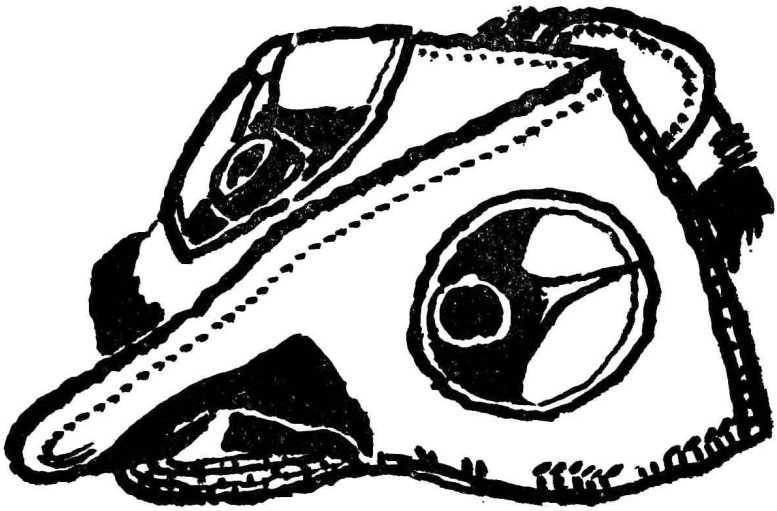
堀尾青史（ほりお せいし）

与田準一（よだ じゅんいち）

まえがき

この本は、せかいの でんせつ
を あつめたものです。でんせつ
とは なんでしょうか。みなさん
は、きつと、はじめて きく こ
とばでしょう。

ぼく『ももたろう』の お話^{はなし}な
ら 知^しっている。わたし『したき

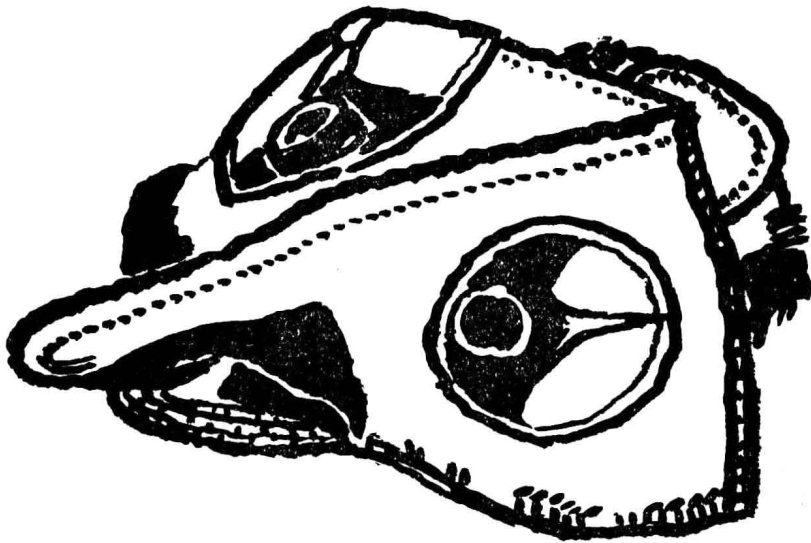


りすずめ』の どうわなら きいたことが あると おっしゃるでしょう。

でんせつにも、どうわと おなじように、おもしろい はなし話が たくさん あります。

でんせつは、おとなの きく話です。むかしの人が、ほんとうにあったと おもっていた はなし話です。

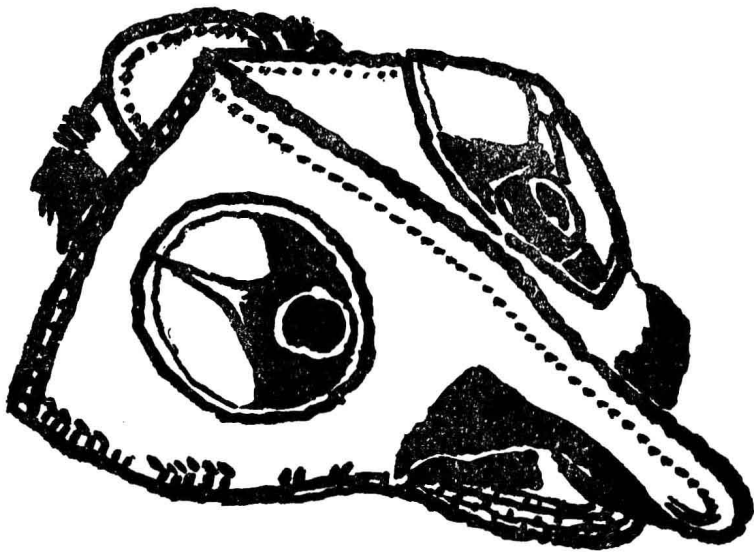
でんせつには、むずかしい はなし話



が たくさん あります。この本
には、その中から、みなさんにも
よく わかって、おもしろいもの
だけを あつめました。

みなさんが おとなに なった
ら、もっと たくさん の でんせ
つを、きいたり 読んだり する
ようになりますよ。

浜 田 廣 介
大 藤 時 彦





もくじ

かわいそうな イヌへちようせん	12
きこりうらしま〈中国〉	20
大ざけのみの じゆせい〈中国〉	28
王さまと ぎんざいくやへインドシナ	38
からだの かわへたいようしゅう	46
大こう水〈メキシコ〉	52
火の おこりへメキシコ	61
火の まつりへペルシャ	68
王さまの 耳は ロバの 耳へギリシャ	76



オオカミに そだてられた ふた子 ^こ ヘイタリア	85
たからの ゆめヘオーストリア	94
だまされた あくまヘスイス	101
いなくなった ウシヘスイス	111
トライザー山の 大男 ^{おおおとこ} ヘドイツ	122
ブルクベルクの うんめいの 小べやヘドイツ	133
ひげもじやの ウスチヤンと	
よくばりの しょう人 ^{にん} ヘソビエト	142
めがみの つくった しまと	
みずうみヘ北ヨーロッパ	151
てつの はじめヘフィンランド	160
かいせつ	172

〔この本の絵をかいた人〕

表紙・見返し・とびら／輪島清隆
口絵・さし絵

〔この本をつくるのに協力した人〕

構成／村上美術

編集／編集者集団“あーる”

世^せ界^{かい}の伝^{でん}説^{せつ}

二年生





かわいいそうな イヌ

ちようせんの でんせつ

むかし、ちようせんの りゆうこうという ところに、おじいさんがいました。

このおじいさんは、イヌを かっていましたが、じぶんの子のようにかわいがりしました。

イヌは おじいさんの いうことなら、どんなことでも ききました。
ある日 おじいさんは、イヌを つれて 町まちの さかばへ いきました。

うんと おさけを の
みました。

ぐでんぐでんに よ
つぱらって さかばを
でると、おじいさんは
ふらふら ^{ある}歩いていき
ました。

「こまった おじいさ
んだ。」

と いうように、イヌ
は あとから ついて





きます。

ひろい はらっぱまで くと、おじい
さんは 草くさの上に ねころびました。グウ
ーッと ねむって、夕ゆうがたに なりました
が 目が さめません。

イヌは おじいさんのそばに いました。
おじいさんを見みまもっていたのです。

ふと、イヌのはなに けむりの にお
いが しました。

へおやつ……。✓

と いうように、イヌは あたまを あげ



ました。

たいへんです。はらっぱの むこうから、
の火が もえひろがってくるのです。

イヌは キャン キャン ほえましたが、
おじいさんは おきません。かおを なめ
ても、ふくを くわえて ひっぱっても、

おきません。

火は ぐんぐん もえてきました。それでも おじいさんは おきません。

よっぱらいは 半分^{はんぶん} しんだようなものですから、こんなときでも 目が

さめません。

イヌは おじいさんを ひっぱりました。おじいさんの からだに、火が